

アメダス命名のときのこと

アメダスを計画し、推進し、完成させた木村耕三元観測部長の功績を島田守家さんが天気43巻8月号に書いておられる。その中に、アメダスの命名者は清水とあるが、アメダスという名前を最終的に決定されたのは木村さんであったので、この間の事情を書いてみたい。

アメダスは、細域の気象資料を自動的に観測通報するために、気象庁が地域気象観測システムの名のもとに展開してきた観測網であるが、その運用を開始する前に、これに英語の名前をつけることになり、担当の観測部の部課長会議で検討することになった。このときの部長は木村さんで、私は高層課長として参加していた。

最初、担当の測候課から Automatic Meteorological Observing System (AMOS) が提案された。この名前は、私が以前米国の気象局を訪問したとき、そこで使用されていたのと同じであったので、そのことを話したところ、それならば再検討するから、それぞれ新しい名前を来週までに考えてくるようにと木村さんにいわれた。

担当の提案を否定した責任上、私は一心に考え多くの文献を調べた結果、米国気象局の報告書の中に、地上観測や高層観測をまとめる項目の題目として Data Acquisition とあるのを見付けてこれだと思い、それを基礎にして Automatic Meteorological Data Acquisition System (AMDAS) を組み立てて提出したところ採用された。

このとき、木村さんは、AMDAS のMのあとに小文字のeを付けて AMeDAS とすれば、雨出すとおもしろいからそうしようといわれて、AMeDAS が決定された。これがいまアメダスとして広く親しまれていることは誠にうれしいことである。

なお、AMeDAS 中の Automatic はそののち上松通信参事官の示唆によって Automated に変更されたので、アメダスの現在の英語名は Automated Meteorological Data Acquisition System となっている。

この文を書くことを勧めてくださった気象の関口編集委員長に感謝する。

(清水逸郎)